

---

## ご挨拶



総合情報処理センター長 西田 眞

10年程前に「マルチメディアとは？」と問われ、理解・納得を得るのに苦慮した経験があります。今では「マルチメディア」は日常用語として用いられるようになり、現在では「ユビキタス社会」とまで称される時代になりました。ユビキタス社会の到来は、何処でも・何時でもネットワークに自由にアクセス可能な環境をもたらすと同時に、少子・高齢化や生活の安全・安心の向上に資すると期待されております。しかし、ユビキタス・コンピューティングの基盤が整備されるに伴い、応用技術、セキュリティ、リスク管理等が課題として浮かび上がって来ております。

このような社会環境の変化に対応すべく、総合情報処理センターではコンピュータシステムを更新し、3月から新システムを用いた運用を開始しております。新システムのポイントは、

- ①全学統合認証システムと連携することによるユーザの利便性の向上、
- ②教育端末にシンクライアントシステムを採用したことによるセキュリティの向上、

等が上げられます。新システムの導入に伴い、サーバのスペックも向上し、高速演算サーバは2倍ほどのスピードアップが図られました。すなわち、新システムは、ユビキタス社会に応えるべき機能を具備したことになります。

一方、新システムを効果的に活用するためには、学内ネットワークの老朽化への対応、セキュリティ対策の実質化とリスク管理の徹底が上げられます。セキュリティ対策の一環としてファイアウォールシステムを12月に更新する予定です。また、学内ネットワークの老朽化対策としては、概算要求を行うと共に、緊急時における学内的な対策について検討を開始しております。情報システム、特にネットワーク環境を安全に維持・管理・運用することは、秋田大学の理念・目標を達成する上で必要不可欠であることは自明のことです。

また、夏休み期間中に、総合情報処理センターの一部に耐震補強工事が実施されました。この工事に併せて、実習室の移動・整備並びにトイレの改修等も行い、センター内の環境整備にも努めております。なお、秋田大学は「国立大学法人秋田大学情報化推進基本計画－秋田大学デジタルキャンパス構想－」を策定し、年度計画に沿って施策が推進されております。秋田大学の情報化の推進や情報環境の基盤を維持・管理する上で、総合情報処理センターは中心的な組織として位置付けられ、その責務は増大しております。総合情報処理センターの責務を適切に遂行するためには、学生・教職員等大学全体の協力が不可欠です。皆様の理解と協力をお願いする次第です。

---